

7月28-29日にかけての山形県での豪雨災害に関する現地調査を実施しました (2020/08/04)

テーマ：令和2年7月豪雨，河川氾濫，土砂災害，避難行動
場所：山形県中部・南部，最上川流域

7月28日（火）～29日（水）にかけて，山形県内では梅雨前線や低気圧の影響で広い範囲で豪雨に見舞われ，最上川やその支流での河川氾濫，山間部などでは土砂崩れなどの被害が発生しました。

これを受けて，8月4日（火）に，森口周二准教授（地域・都市再生研究部門 計算安全工学研究分野）が土砂災害に関する調査を，橋本雅和助教（災害リスク研究部門 環境変動リスク研究分野）が浸水被害に関する調査を，佐藤翔輔准教授（人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野）が避難行動に関する調査を実施しました。

土砂災害については，大江町，朝日町，白鷹町，大蔵村を中心に現地踏査を行い，橋梁接続部の道路路肩崩壊，山間部での土石流，道路下のり面の崩壊，肘折温泉の河川護岸の被害などを確認しました。浸水被害では，最上川の大石田町，大蔵村での越水箇所を踏査し，川の中の土砂の堆積や樹木の生え方など最上川の水位が上がる要因との関連性を調査しました。避難行動については，大石田町役場，大蔵村役場の担当職員や，地域の区長などへの簡易的なヒアリング調査を行いました。今後，大石田町，大蔵村と共同で避難行動実態調査を実施することになりました。



建物敷地内への土砂流入（白鷹町）



五十沢川越流地点(大石田町)の調査



道路路肩の崩壊（月府川大橋付近）



最上川越水箇所（大石田町）

文責：佐藤翔輔（人間・社会対応研究部門）
森口周二（地域・都市再生研究部門）
橋本雅和（災害リスク研究部門）